

談話会	10月19日(月) 16:00～17:00 「高木-van der Waerden関数の確率論的解析」 至る所微分不可能な連続関数の典型的な例である高木-van der Waerden関数の解析において、直近の移動方向のみを記憶するエレファントランダムウォークに関する極限定理が応用できることを紹介する。(中野 裕三郎氏(横浜国立大学)との共同研究に基づく。)
講義 期間 ・ 題目 ・ 内容	10月20日(火)～10月23日(金) 各日 15:00～18:00 「エレファントランダムウォークに関する極限定理」 『過去は忘れ、現在を見て次の未来をきめよう』 ...このような性質をもつ確率過程はMarkov過程と呼ばれ、大きな理論に発展している。一方、過去の軌跡全体が将来の推移確率に影響を及ぼすような記憶のあるランダムウォークにも近年注目が集まっている。本講義では、エレファントランダムウォークに関する極限定理について解説する。
会場	川井ホール